様式第３号(第１２条関係)

会　　議　　録

会　議　の　名　称	令和４年度第２回吉川市廃棄物減量等推進審議会
開　催　日　時	令和４年８月１８日(木)　午後２時００分から 午後４時２０分まで
開　催　場　所	吉川市役所　２０２会議室
出席委員(者)氏名	松井美枝子委員、池上雅子委員、深堀和香子委員、長谷隆仁委員、 生田貴之委員、附田健志委員、五十嵐惠千子委員、 長谷川健一委員、田島三枝子委員
欠席委員(者)氏名	中村博明委員、
担当課職員職氏名	環境課資源化推進係長　山崎徹、 環境課環境保全係長　三城肇
会議次第と会議の公開又は非公開の別	１　開　　会 ２　議　　事 （１）吉川市のごみ処理の現状と課題について （２）基本目標の設定について （３）その他 ３　閉　　会 すべて公開
非公開の理由(会議を非公開にした場合)	なし
傍　聴　者　の　数	０名
会議資料の名称	次第 資料１　吉川市の概況 資料２　本市のごみ処理の現状 資料３　第３次処理計画の総括
会議録の作成方法	□録音機器を使用した全文記録 ■録音機器を使用した要点記録 □要点記録
会議録確認指定者	深堀和香子委員、長谷隆仁委員
その他の必要事項	なし

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
１　開　会	――――――――――――――――《開　　会》――――――――――――――――
事務局	ただ今より、「第２回吉川市廃棄物減量等推進審議会」を開会する。
	――――――――――――――――《配付資料確認》――――――――――――――――
事務局	配布資料を確認。
	――――――――――――――――《会議の公開》――――――――――――――――
事務局	本日の会議は全て公開で行う。
	――――――――――――――――《定足数確認（会議の成立)》――――――――――――――――
事務局	吉川市廃棄物減量等推進審議会運営規則第５条第１項の規定により、会議開催の定足数である過半数に達しており、本日の審議会が成立していることを確認した。
	――――――――――――――――《議事審議》――――――――――――――――
	――――――――――――――――《署名委員の指名》――――――――――――――――
松井会長	会議録の署名委員に、深堀委員と長谷委員の二人を指名。
	（１）吉川市のごみ処理の現状と課題について
事務局	**事務局より資料１の説明** 【事務局資料説明（略)】
長谷委員	質疑 吉川市における処理施設の位置図については、計画書に載せるのか。土地利用方針図とは別につけるのか。
事務局	こちらはあくまで市の概況ということなので、ごみ処理そのものというより吉川市自体の概況とごみ処理との関連からみて関係があるところを資料として載せる予定でいる。そのため、施設関係のことを載せるとすれば、次のごみ処理の現状等で乗

	せることになる。
長谷委員	食品ロスについては、別途に計画を作るのではなくてこの中で作りこむのか。
事務局	独立して作るのではなく、廃棄物処理計画であるとともに食品ロス削減推進計画であるという位置付けで考えている。
事務局	**事務局より資料２の説明** 【事務局資料説明（略）】
長谷川委員	質疑 ５ページに剪定枝・刈草という項目があるが、各家庭から出された草木は、燃やすごみで出した場合は別々に持って行っていないと思うが、収集した後に選別しているのか。
事務局	剪定枝・刈草は、燃やすごみで出された場合は収集運搬後に焼却施設に直接持ち込んで焼却処理するため、あらためて分別しない。枝と草を別々に分けて東埼玉資源環境組合の堆肥化施設に持ち込んだものが、剪定枝・刈草という項目に集計される。堆肥になるか、焼却されるかは、燃やすごみで出すか、堆肥化施設に持ち込むかで分かれる。
長谷川委員	堆肥にする剪定枝や刈草は一般家庭から出たものではないということか。
事務局	剪定枝・刈草は、家庭系と事業系ともに項目があり、事業系については、市役所も含めて公共施設から出たものも含まれて

	いる。個人で堆肥化施設に持ち込まれたものを家庭系に集計している。
池上委員	３ページの東埼玉資源環境組合第一工場で焼却処理された焼却灰の埋立について、説明の中で主に県外に埋め立てしているとのことであったが、具体的にどちらか。
事務局	資料を持ち合わせていないため、次回会議で回答させていただく。
附田委員	１１ページのし尿処理経費の推移とあるが、令和元年度が１億円くらいで、令和３年度は半分くらいになっているが、理由を伺いたい。
事務局	し尿処理経費の主な経費としては、し尿の収集運搬業務委託料と東埼玉資源環境組合の分担金である。経費の変動が大きいのは、分担金の額が大きく、分担金はごみ処理経費とし尿処理経費で割合が変動することが理由である。
田島委員	２ページの紙・衣類とペットボトルの搬入先が民間の再資源化処理施設とあるが、何社でやっているのか。
事務局	ペットボトルについては、現在は一番近い距離にある１社と契約している。紙・衣類は市内に３社、古繊維は近隣に３社あり、入札により契約している。
深堀委員	６ページのグラフで、吉川市の総排出量が平成３０年度あたりから増加してきていて、コロナ禍の影響もあるとのことだが、全国平均や県平均は大きく上昇していないが、要因を把握して

	いるか。
事務局	このグラフは家庭系ごみと事業系ごみを合計したものだが、全国的な傾向として、新型コロナウイルス感染症の影響で在宅勤務等が増えて家庭系ごみが増えており、事業系ごみは飲食業等が影響を受けて減っている傾向にあり、両者を合計した全体としては横ばいの傾向にある。吉川市の場合は、家庭系ごみも事業系ごみも増えている。事業系ごみが増えているかどうかが要因と考えられる。
長谷委員	図表2-4、図表2-6の１人１日あたりの排出量については、１人あたりの事業系ごみと家庭系ごみと集団資源回収量とに分解したグラフにした方が、なぜ吉川市でごみが増加しているかよくわかる。
事務局	比較材料として両方合計したものを作成したが、素案として採用するかどうかは別としても、吉川市の家庭系と事業系と分けた方が特徴を捉えやすいので、次回以降に資料を用意することとする。
長谷委員	図表2-10、図表2-11は、湿重量の割合で作成しているのか。
事務局	東埼玉資源環境組合に確認したところによれば、湿ベースのものと考えられる。というのは、市町村に提供された資料には乾湿のいずれか明記されていないため確認したところ、組合全体の資料があり、その数値と見比べると湿ベースのものと考えられる。
長谷委員	計画に載せるかどうかは別として、ごみの組成の推移を見た

	ときに、ごみの量が増えていなければ割合で増減が分かるが、事業系ごみの場合は絶対量として増えているか増えていないか、組成だけではわかりづらい。割合を縦で割った絶対量のグラフもあった方いいと思う。
事務局	全体の量をこの割合を算出して、例えば紙類が総量としてどのように推移したかを示した方が分析としては有効だということでよろしいか。
長谷委員	事業系のプラスチックの割合は減っているが、事業系の総量が増えているので、もしかしたらプラスチックの総量としては減っていないかもしれない。そのうえで厨芥類の総量が増えたから割合が増えたというように、総量のグラフもあった方が分析できると思う。
事務局	この組成調査は、サンプルの回数が少ないため、１回あたり２００キログラム強の調査を家庭系では年６台、事業系では年４台で、不特定の車両を調査している。一定の傾向としては参考になるとは思うが、全体を捉えているといえるか疑義があるため、参考としてこのグラフを作成した。次回、総量を示したグラフを作成してお示ししたい。
長谷委員	精度としてよくないと思われるが、参考としてあった方がよい。
	事務局より資料３の説明 【事務局資料説明（略）】
	質疑

生田委員	ごみの分別について、吉川市はごみの分別の数が少ないと聞いたが、実際はどうなのか。また、ルールはどのように決めているのか。
事務局	当市より細かく分別している団体が存在する。ペットボトル以外にすでにプラスチックの分別を始めている団体もある。
生田委員	細かく分別するとどのようなメリットがあるのか。
事務局	リサイクルという点では、あらかじめ分別されていた方が効率的である。 例えば、プラスチック類は、資源として有効活用できるという側面があるが、重量が軽くて嵩張るため収集運搬にかかる費用が高額になりうるという部分があるため、どちらを優先するのかという選択肢の中でリサイクルする団体もあれば、分けずに焼却してエネルギー回収する団体もある。
五十嵐委員	課題の整理の中で、食品ロスの削減の推進に向けた取り組みとあるが、子供食堂や社協に市民の方が食料品や雑貨類をお持ちになることがあるが、そのように再利用された量をどうやって把握しようとしているか。プラスチックごみの削減に向けた取り組みとして、トレーなどを回収している店舗が市内に何店舗あるか。
事務局	食品ロスについて、食べ残しや手付かずで捨てられている量は、組成調査のような調査をしないと実際には把握が困難と考えられる。現状では、例えば県の方で何団体か調査したサンプルで推計することしか現段階ではできないと考えている。トレー等の回収を実施している市内の回収場所は把握していない。

五十嵐委員	県で把握している数値から落とし込む数字しかわからないということか。
事務局	埼玉県の計画には、食品ロスの推計では１０数パーセントと示されており、推計方法も何通りかあるが、県の計画を参考に吉川市の食品ロス推計量を算出したいと考えている。ただ、取り組みをしてどれくらい減少したかを把握することは難しい。
五十嵐委員	ある程度重さを測ったり、給食の残渣をなくしていくとか、数字をつかもうと思えばつかめていけるのではないかと思う。市としても意識して検討していただきたい。 プラスチックについては少なくとも市内で回収している店舗の数を把握しておいていただきたい。 市内７か所の環境ボックスについて、日曜日など使いやすいようになっているのか伺う。
事務局	環境ボックスを設置している施設によっては、鍵を施錠してあり職員に鍵を開けていただいて入れたり、休館日には閉まったままという場所もある。
五十嵐委員	今後、単身世帯で若い世代が増えていくと思われるが、ごみを出すタイミングなどを考えたときに、資源を回収する場所を増やすことや、再利用できるものを出しやすいといった工夫を検討していただきたい。
事務局	環境ボックスで問題があることとすれば、資源の持ち去りだとか、環境ボックスの対象ではないものを入れられたりということがあり、施設によっては施錠するということになっている。

	設置数や設置できる場所を再検討していく必要もあるかと思う。
五十嵐委員	ＩＣＴも進んでいるので、少なくとも駅近くに、仕事に行く前に紙ごみが入れられるとか、何か工夫ができるのではないかと思う。
田島委員	３ページの意識啓発活動のところで、情報発信について、吉川市では外国人が増えている。ごみの出し方が町内会や自治会に任されている中で、外国版は出ていると思うが、それ以外のことは考えているか。
事務局	外国人に向けた取り組みについては、外国語版のごみカレンダーを配布する以外に特段実施していない。
田島委員	今後、外国人が増えていくと思われるので、ホームページや外国語版のごみカレンダーを配布するしかないというところで、市内に転入した際に説明をしてもらいたい。今回の取組みに入れてもらいたい。
事務局	取組を考える中で何かできないか検討する。
五十嵐委員	ごみの分別については、ホームページに掲載されているが、外国語版に変えられるような取り組みをお願いしたい。外国の方にとっては見やすくない状況だと思うので、スマホを活用した情報発信をお願いしたい。
事務局	取組を考える中で参考とさせていただく。

長谷川委員	外国人を雇用している雇用主にごみの出し方などを話してもらうような方法をとらないと、直接言っても言葉の問題で難しいと思う。環境ボックスの設置はいいと思うが、ルールが守られないことがありうると思う。誰かが常駐するわけにもいかないので、難しい問題だと思う。看板を作って対策をしているが、決まった場所に不法投棄されることがある。 燃やすごみを減量するのに、資源ごみの中で、雑がみの処理方法を考えた方がいいのではと思う。雑がみ袋の配布という取り組みがあるが、地区では資源回収を月に１回実施しているが、出す量が徐々に少なくなってきている。資源ごみでは、缶はそれなりの量が集積所に出されているが、雑がみは圧倒的に少ない。燃やすごみに入れられていると思われるので、分別したら燃やすごみが減るのではないか。雑がみを皆さんに徹底して分別してもらえるといいのではと思う。
事務局	雑がみを分別をしていない方が分別を始める状況をどのように作るかというところで、何が有効か検討が必要である。
池上委員	３ページの取組施策の中で、パートナー収集の実施というのは、具体的にどのような取組内容か伺う。
事務局	要介護の認定を受けている方など自分でごみ出しをするのが困難な方を対象に、週に一度、ごみの回収にご自宅に伺うという取り組みである。
池上委員	要介護に認定された場合で申請があったら実施するというもので、周知されているものでもないということか。地域でみんなでやるという取り組みでもないということか。

事務局	自分でごみ出しができない方で、協力してくれる家族がいない場合に、申請をいただき、調査をさせていただいた上で、市がご自宅に回収に伺う形で実施している。地域の方に手伝ってもらうような制度ではない。
長谷委員	３つの目標値について、図表2-3のフローのどの数字を使って計算しているのかを書いてもらった方が分かりやすい。排出量、総排出量、特に資源化率がどの数字を使って算出したのか書いていないのでわかりづらかった。
事務局	今回の資料には記載していない。３次の計画の中で算出方法は定義している。図表2-3のごみ排出量を年度末人口で割ったものが１人１日ごみ排出量と設定している。資源化率については、今回の資料では示ししていない。
長谷委員	資料に入れておいた方がよい。分母と分子を記載した方がいい。
事務局	次期計画の目標値は算出式を記載するが、今回の資料は３次の計画で定義してあったものについての実績を総括したものであるため記載を省略している。
長谷委員	２の取組施策の評価については、文章で記載するのか。この資料だと総括というより実施したことのリストになっている。実施したことによりごみの排出量が目標に達しなかったというような文章が必要では。
事務局	計画の素案を作る段階で、さらに文章を追加するかどうか検討する。

長谷委員	これを実施したが、効果が無かったから検証しないといけないといった総括が必要。
事務局	３次計画の取組状況から次期計画の取組みをどうするかを考える段階になる。今回の資料では、実施状況に取り組んだことを箇条書きにしているが、３次計画にはこの他にも取組の具体的な施策が掲げられていたが実施していないものがある。次期計画の取組施策の中で、継続した方がいいものは掲載することになるので、それが３次計画の評価と位置付けるか、あるいは、もう少し言葉を添えるかというところだと思うが。
長谷委員	難しいが、測定しないとわからないと思う。何かを実施したら、実施前と実施後で何かを測ってみないと、効果はわからない。可能な限り測定した方がいい。
事務局	測定というのが、例えばこういった取り組みをしたからどういった効果が出たというのは、客観的にデータとしてとることが難しいものがほとんどではないかと思う。アンケートの実施なども行ってきていないということもある。
長谷委員	費用や労力から全部はできないと思うが、可能なものはやった方がいい。例えば、事業系ごみの排出者指導でアンケートをとって効果が図れる、生ごみ処理機の普及・促進についても何台増えたということを入れれば効果が分かる。
事務局	実績というか、この１０年間の取組みの状況を数値で示せるものがあれば、これに追加していきたい。

長谷委員	今後、そういう態度で取り組んでもらいたい。 一般廃棄物の処理の会計基準は検討しているか。
事務局	現時点では検討していない。
長谷委員	意見として、課題の整理については、事業系と家庭系では対応の仕方が異なるので、分ける観点で課題を整理した方がいい。
事務局	今回は、こういう形で課題を整理したが、初めから事業系と家庭系を分けていない。もちろん課題の内容は異なってくる。
深堀委員	そもそも計画を作ることが目的となってしまっているところがある気がする。総括する場合に、効果があったものをいくつか数値があると議論がしやすい。出前講座の評判など、数値でなくても担当の方の肌かんでもよい。次期計画を作る中で参考になるような総括や課題の整理のところでも、家庭・自治会・事業者のところで何ができるかというのを考えていかないと、計画を作ることだけで終わって、集まっている目的とか意味がなくなってきてしまう。議論ができるような資料を提示していただきたい。
事務局	お二方の意図している部分は、こういう取り組みの結果、ごみの量がこれだけ減ったという数値が必要ということなのか。ごみの削減効果を示す客観的なデータはないかもしれない。例えば、出前講座でこの１０年間で何年度に何回実施したとか、実績を示してほしいということか。
深堀委員	個人的には、出前講座でこういう項目で実施して子供たちに啓蒙活動を実施したとか、水切りであれば何世帯ぐらいに配布

	したとかというのがあると、やったと書いてあるが具体的にどのような取組であったかとか第４次計画に入れるべきか参考になるものがあると、この実施状況だけだと見えてこない。数値というよりは、次に生かす参考資料でよい。
事務局	この計画自体は１０年計画であるが、毎年度のごみの統計等を作成しているので、資料をまとめて、次回の会議でどのような取組を行ってきたのかお示ししたい。
	――――――――――――――――――――《議事審議》――――――――――――――――――――
	（２）基本目標の設定について
	事務局より説明
	【事務局説明（略）】
	質疑
	質疑なし
	――――――――――――――――――――《議事審議》――――――――――――――――――――
	（３）その他
	事務局より事務連絡
	【事務局説明（略）】
	質疑
	質疑なし
	――――――――――――――――――――≪議事の終了≫――――――――――――――――――――
３　閉会	――――――――――――――――――――《閉会》――――――――――――――――――――
事務局	以上で本日の審議会の内容はすべて終了した。これをもって、「第２回吉川市廃棄物減量等推進審議会」を閉会する。

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和４年９月１３日

署名委員　　署名委員